

29:19 あなたはもう一頭の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置く。
29:20 あなたはその雄羊をほふり、その血を取って、アロンの右の耳たぶと、その子らの右の耳たぶ、また、彼らの右手の親指と、右足の親指につけ、その血を祭壇の回りに注ぎかける。

29:21 あなたが、祭壇の上にある血とそそぎの油を取って、アロンとその装束、および、彼とともにいる彼の子らとその装束とに振りかけると、彼とその装束、および、彼とともにいる彼の子らとその装束とは聖なるものとなる。

29:22 あなたはその雄羊の脂肪、あぶら尾、内臓をおおう脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓、その上の脂肪、および、右のももを取る。これは、任職の雄羊である。

29:23 主の前にある種を入れないパンのかごの丸型のパン一個と、油を入れた輪型のパン一個と、せんべい一個、

29:24 これらをみなアロンの手のひらと、その子らの手のひらに載せ、これらを奉獻物として主に向かって揺り動かす。

29:25 これらを、彼らの手から取り、全焼のいけにえといっしょに祭壇の上で焼いて煙とし、主の前になだめのかおりとする。これは、主への火によるささげ物である。

29:26 あなたはアロンの任職用の雄羊の胸を取り、これを奉獻物として主に向かって揺り動かす。これは、あなたの受け取る分となる。

29:27 あなたがアロンとその子らの任職用の雄羊の、奉獻物として揺り動かされた胸と、奉納物として、ささげられたももとを聖別す

るなら、

29:28 それは、アロンとその子らがイスラエル人から受け取る永遠の分け前となる。それは奉納物であり、それはイスラエル人からの和解のいけにえの奉納物、すなわち、主への奉納物であるから。

29:29 アロンの聖なる装束は、彼の跡を継ぐ子らのものとなり、彼らはこれを着けて、油そそがれ、祭司職に任命されなければならない。

29:30 彼の子らのうち、彼に代わって祭司となる者は、聖所で務めを行なうために会見の天幕にはいるとき、七日間、これを着なければならない。

29:31 あなたは任職用の雄羊を取り、聖なる場所で、その肉を煮なければならない。

29:32 アロンとその子らは、会見の天幕の入口で、その雄羊の肉と、かごの中のパンとを食べる。

29:33 彼らは、彼らを祭司職に任命し、聖別するための贖いに用いられたものを、食べる。ほかの者は食べてはならない。これらは聖なる物である。

29:34 もし、任職用の肉またはパンが、朝まで残ったなら、その残りは火で焼く。食べてはならない。これは聖なる物である。

雄羊の血を耳と指につけるのは、聞くことと行うことがきよめられ、良い献身となることを表します。任職のためにも動物がささげられるのは、働きがきよめられて主のものとなる必要だからです。

また食事について祭司だけの規定が書かれています。それは祭司が特別な存在であることを自覚させるためです。祭司たちはそのようにし、その働きには特別な責任があるのだと自覚したでしょ

う。新約の祭司である私たちも、責任を覚えそのような思いを持ち、行動しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

